

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	動脈管依存性二心室循環における変法 Blalock-Taussig-Thomas 短絡術に対する側方開胸法と正中胸骨切開法の比較:単施設後ろ向き観察研究
研究責任者	聖隷浜松病院 心臓血管外科 曹 宇晨
研究実施体制	聖隷浜松病院 心臓血管外科 (研究分担者:小出 昌秋、八島 正文、國井 佳文、高橋 大輔、前田 拓也、曾根 久美子、西山 悟)
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ~ 2028年3月31日
対象者	2000年7月から2025年3月までの間に聖隷浜松病院心臓血管外科において、動脈管依存性二心室循環に対して変法 Blalock-Taussig-Thomas 短絡術(mBTTS)を施行された患者さんを対象としています。
研究の意義・目的	肺血流過多を主要評価項目とし、各アプローチの利点・欠点を明らかにすることを目的としています。本研究の意義は、術式選択に関するエビデンスの構築に貢献し、術後管理の改善および患者予後の向上に資するものと考えております。
研究の方法	単施設における後ろ向き観察研究です。 対象患者について、診療録から以下の情報を収集し、側方開胸法(LT)と正中胸骨切開法(MS)の早期術後成績および中期成績を比較検討します。 ・術前情報:年齢、体重、診断名、術前カテーテル検査所見(肺動脈径、Nakata index 等) ・術中情報:術式、シャントサイズ、吻合部位、体外循環使用の有無、肺動脈形成の有無 ・術後早期成績:肺血流過多の有無、30日死亡、再手術、在院日数 ・待機期間の成績:死亡、シャント再介入、肺動脈形成術 ・心内修復術の成績:達成率、術前カテーテル所見、RV/LV 圧比
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 心臓血管外科 (氏名) 曹 宇晨 TEL:053-474-2222(代表) 心臓血管外科外来 9:00~17:00 平日